

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 学生支援センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
④-1 目標	<p>○ 学生相談室は昨年6月に非常勤カウンセラー(週3日)を新たに配置することで、学生への対応を充実させ、今年2月末時点での延べ相談件数は2,497件となった。また、「学生相談室だより」を毎月発行して、学生及び教職員に配信したほか、ピアサポーター養成講座(ピアサポーター学生数は前期後期いずれも32名)やキャンパスライフセミナー(津島地区:9回、鹿田地区:3回、合同開催:1回、出席者数累計約430名)を精力的に開催することで、学生や教職員に対する啓発を含めた支援体制の充実を図った。特に第7回キャンパスライフセミナー「さまざまなセクシュアルマイノリティについて知る。考える。3rd」は学内外から約200名の出席があり、関心の高さが伺われ、理解の一助に資する形となった。</p> <p>○ 障がい学生支援室では、発達障がいを含む障がい学生の修学支援、障がい学生支援室だより「ちよびてご」の毎月発行、ノートテイク養成講座(今年2月時点で計19回、登録者数106名)やバリアフリーサポーター養成講座(計6回、出席者数累計92名)を行なうとともに、コンソーシアム岡山障がい学生支援委員会との共同で、障がい学生支援研修会を8月28日に実施した(出席者数は学内44名、学外59名(高等学校等含む))。アンケート結果による研修会の評価は次回の開催希望を含めて総じて高く、関係機関への啓発に資する形となった。また、前年同様に、障がい有する学生の個別の支援については、個別支援連絡会議を年度当初に開催し、その後は必要に応じて、前期と後期の修学支援のモニタリングと評価を反映しながら、関係者間で連絡調整を行い、支援を充実させている。</p> <p>○ 今年度新たに設置された学生生活支援室では、予防・啓発や相談・支援の点からカルト問題に取り組み、カルト問題対策講演会及び県内大学との情報交換会を12月17日に実施したほか(出席者数は支援担当者を中心に学内外合わせて37名)、全国規模の集会において取組事例の紹介、弁護士等との意見交換を行い本学の対応に役立てた。また、新入生全員に配付している「安全と安心の学生生活を応援します」により、注意喚起を継続している。さらに、保健管理センターと連携してキャンパスクライシスマネジメント研修において薬物乱用・飲酒問題に関する内容を提供する等の啓発を実施した。</p> <p>○ 研究奨励金制度については円滑に運用できており、学会発表時の所属記載等(社会人学生の大学名記載の推奨)については、3月に運用細則を改正し、平成27年度から運用予定である。また、平成26年度から実施した経済的に困難を抱える学生に対する支援としての学内雇用制度(学内WS)については、取扱要項に基づき、各部署において、授業料免除対象者を今年2月末までに34名雇用している。この他、経済的な支援の観点から当該収入について、授業料免除に算定しないよう取扱基準の改正を実施した。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
○ 学生支援センター年報の作成	
○ 「学生相談室だより」の作成	
○ 「障がい学生支援室だより」の作成	
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>平成26年度のセンター業務(学生相談体制の充実とカルト被害防止のための啓発活動、障がい学生支援体制の充実、研究奨励金制度の円滑な運用など)の達成状況は、学生相談室、障がい学生支援室、学生生活支援室の3室の取り組みと連携を通じて、良好であった。</p> <p>学生相談関係では、学生相談室に非常勤カウンセラー(週3日)を新たに配置することで近年増加の傾向にある相談件数に対応した。カルト問題については新しく設置された学生生活支援室が担っているが、学内外でカルト団体の活動は続いており、引き続き予防・啓発を行う必要がある。</p> <p>障がい学生支援関係では、学内の障がい学生の修学支援を行うとともに、大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」と協働して、「障がい学生支援研修会」を実施したが、来年度に向けてこれを深化させる。平成28年度から施行される「障害者差別解消法」を見据えながら、関係機関と連携して岡山県下における障がい学生支援の中核としての支援体制を整備していきたい。</p> <p>研究奨励金制度については円滑に運用できているが、今後は必要に応じて見直していく。また、学生の学内雇用制度を拡充し、職業意識・職業観を育み、関与する学生が相互に成長することを促したい。</p>	